

島根県相撲連盟

これまでのあゆみ

相撲発祥の地とされる島根県において「島根県相撲連盟」が発足したのは、昭和26年頃とされるが、役員の変動等もあり連盟の充実発展には至らず有名無実の状態となる。

その後昭和32年、再発足の機運の高まりとともに、成相善十会長就任により新生相撲連盟として再結成、同年3月島根県体育協会へ加盟、これが現在に続く正式な島根県相撲連盟の発足となる。

くにびき国体以前から会長として県相撲連盟を牽引した景山俊太郎氏が平成27年に勇退し、吉田政司氏を経て、平成30年に青木一彦氏が引き継いでいる。その中で、女子相撲に対して活動の強化、指導者、審判員の育成そして、スポーツインテグリティ・ガバナンスコードへの取り組みなど評価をいただいている。

また、選手層の薄い中でも各種大会に参加をし、競技力の向上にも努めている。



令和元年第74回茨城国体 成年男子 池田晃大選手



令和元年第74回茨城国体 成年男子 池田賢二選手

現在の状況

平成年代の初め頃までは、県連盟主催で春秋の県大会、国体予選、体重別大会等を開催してきたが、近年は参加選手の減少もあり、一般部門の大会は激減し、現在は国体予選が唯一の大会となっている。また、高校相撲部はピーク時に12校を数えたが、現在は隠岐水産高等学校のみが活動をしている状態である。

以前は、祭り相撲・地区相撲大会が盛んであったが、現在は開催されることが減ってしまった。よって、小学生・中学生において相撲を取るという経験をなくし、結果として相撲人口が減ってしまい、ジュニアから少年へとつながりが薄れているのが現実である。

各種大会においても、以前は入賞者を輩出していたが、現在はそれもできていないのが実状であり、今後の急務であることは必須である。但し、全国で戦うためには体力的なところもあり、大いに悩むところである。

これから

先に記載したとおり、ジュニアからの育成が必須となることから、地域での体験会等を通して相撲と触れ合える機会を増やす必要があると考える。これまでの指導者講習会の内容を再考し、部活動の地域移行も踏まえ、外部指導者の研修についても積極的に開催をするとともに、参加いただけるよう進めていく。

少年・成年ともに指導者、選手の強化が必要であることから、県の事業とタイアップして大学等で活躍した選手の受け皿ができるように働きかけていく。

また、コンプライアンス・ガバナンスコードの遵守をはじめ、選手・競技会役員育成を以て連盟組織のレベルアップを図る。そして、2030年島根かみあり国スポに向けて進んでいく。



令和元年第74回茨城国体 成年男子 妹尾拓史選手